

## RI 法廃棄物の管理に関する質問への回答

令和 3 年 12 月 14 日  
日本原子力研究開発機構

### 1. RI 法廃棄物の炉規法への移管の方法について

・ R I 法第 33 条の 2 の規定（廃棄に係る特例）によって、JAEA が有している RI 法廃棄物を炉規法に移管する場合において、何をどのように確認し、どのように記帳して移管する計画でしょうか。

廃棄に係る特例は、将来の埋設処分を合理的に実施するため、RI 法の廃棄物を炉規法の施設で管理・処分が行える制度と認識している（別紙 1）。

原子力機構では、現行の QMS の下、埋設処分に向けた廃棄体作製のための分別・処理方法等についての作業・検討を進めている。

原科研及び大洗研では、炉規法及び RI 法の廃棄物を QMS に基づく廃棄物管理システムによって取扱い、廃棄物の発生部署から廃棄物の許可区分、性状、放射能データの記録を受け取り、その後の廃棄体作製のための分別・中間処理・保管の記録に紐づけながら管理を行っているところである。（別紙 2：原科研の例）

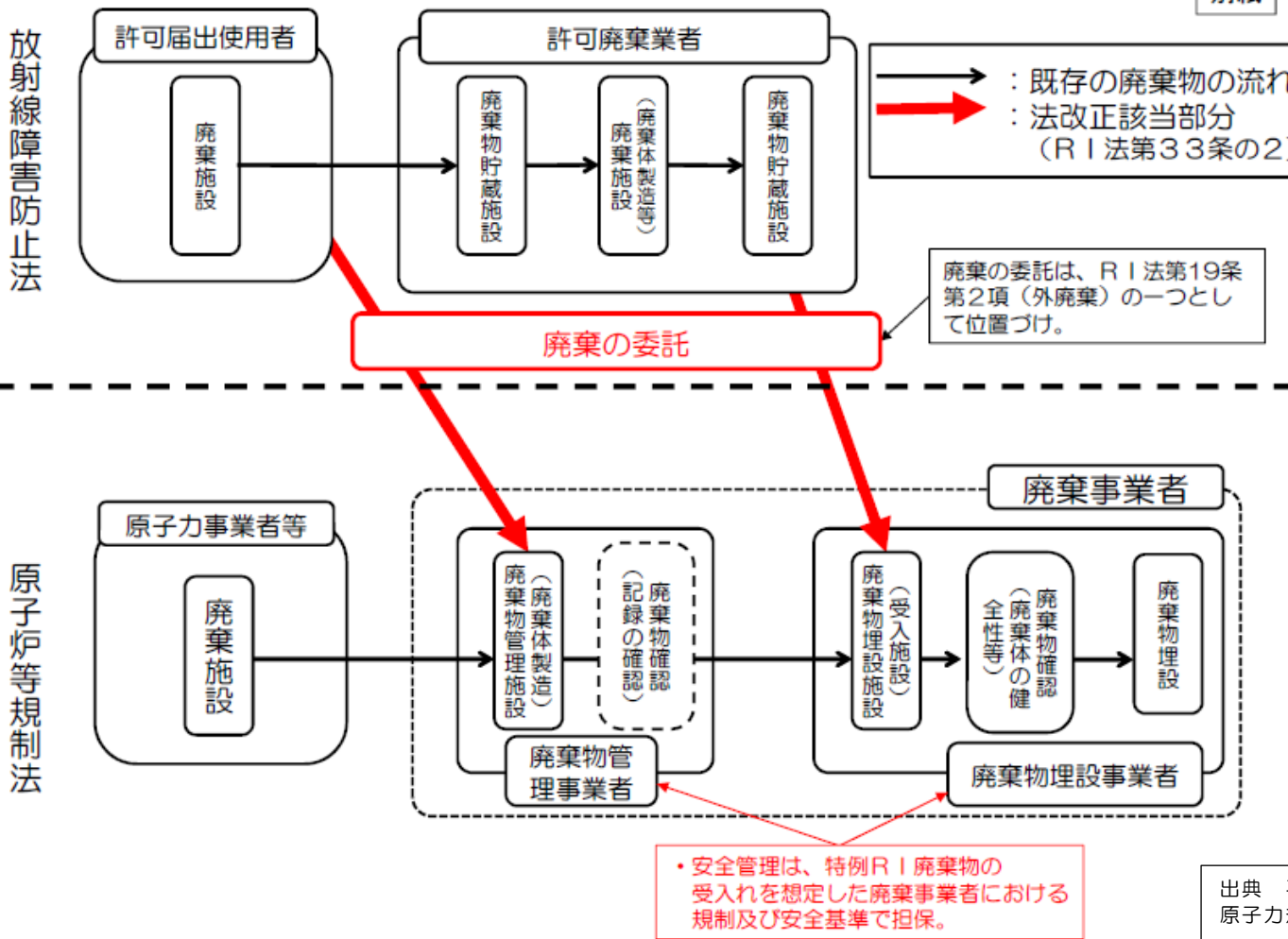
別紙 1 より、RI 法から炉規法への廃棄物の移管は、埋設事業又は管理事業において実施できる。これより、管理事業においては、受け入れた RI 廃棄物毎に管理データが埋設処分の廃棄体確認に向けて必要なデータが含まれていることを確認した上で炉規法に移管を行い、移管前後のデータは、現在の管理システムの中で管理することを想定している。

現在、原科研及び大洗研において移管の仕組みの構築に向けた準備 \*1 を進めており、準備が整った段階で、移管前後の記録の管理の仕方などについて、確認・整備していただきたい。

また、埋設処分の廃棄体確認に必要な追加データ（充填固化等の処理や放射能測定等の記録）については、埋設事業や廃棄体化処理の進捗に従って、検討を具体的に進めることを考えている。

### 研究施設等廃棄物に係る「廃棄の委託に係る特例」のイメージ

別紙



出典 平成 29 年度第 36 回  
原子力規制委員会資料 一部抜粋

別紙2 (原科研の例)

放射線固体廃棄物引取依頼書

【基本情報】 【関連作業・履歴情報】

◆発生元情報

施設	STACY施設	課室名	臨界技術第1課
担当者	TEL	封入年月日	2020/11/04
作業責任者		廃棄年月日	2021/01/21
廃棄の場所			
作業従事者			

◆アクション情報

アクション種別	発生	アクション日	2020/11/04 (~2021/01/21)
---------	----	--------	--------------------------

◆管理者情報

課室	臨界技術第1課	チーム	
施設	STACY施設	廃棄の場所	

◆区分情報

データ区分	固体廃棄物	レベル区分	A-1
管理区分	β、γ	核燃料物質の有無	無
許可区分	原子炉	廃棄物の汚染形態	付着/浸透汚染, 放射化汚染
所外廃棄物分類			
特殊な物質の有無	無		
IOタグNo./容器番号	2008120562	保管体番号	
検封印記番号	SK2-21-001		

◆容器形状等

【内容器】

形状		材質	
----	--	----	--

【外容器】

形状	ビニール包装等	材質	
寸法 (mm)		容器重量 (kg)	
容積 (m <sup>3</sup> )	0.470	表面密度 (Ba/cm <sup>2</sup> )	< 4.00E-02
補充遮蔽体種類		補充遮蔽厚み (mm)	

◆内容物情報

内容物	ステンレス	性状	不燃不腐
		割合	形状
			その他の形状

◆放射能等情報

個別使用核種	核種	放射エネルギー (Ba)	測定年月日	測定方法	測定担当者
無	U-234	1.70E+02	2020/11/04	発生元表面線量当量率換算法	
無	U-235	8.00E+00	2020/11/04	発生元表面線量当量率換算法	
無	U-238	1.10E+01	2020/11/04	発生元表面線量当量率換算法	
無	CO-60	7.90E+03	2020/11/04	発生元表面線量当量率換算法	

◆表面線量当量率情報

測定年月日	2020/11/04	測定担当者	
-------	------------	-------	--

文書番号: (研) QAM-710-005 改定番号: 00

様式 4-1

高減容処理技術課

課長 (承認)	チームリーダー (確認)	担当者 (作成)	請負業者 確認者
---------	--------------	----------	----------

分別作業記録(解体室)(1/2)

作業年月日: 2023年2月5日

管理番号: OT210205-04

記入者:

作業エリア

作業場 B エリア  
 グリーンハウス A  
 グリーンハウス B  
 廃棄物処理ボックス  
 その他 (大型廃棄物解体用ハウス)

分別作業責任者

分別作業員	
-------	--

作業内容及び確認事項

作業内容及び確認事項	確認
発生場所の区分に従って、前処理した。	✓
マニュアルに示す鉛等の「不遺物」を除去した。	✓
構造物、分岐管(および内部を確保できないものは「不遺物」として除去した。	✓
材質が判断できないものは「不遺物」として除去した。	✓
容器に収納する前に、分別した廃棄物に「不遺物」が残っていないことを、分別作業責任者が確認した。	✓
「不遺物」が混合されないよう容器に収納した。	✓
著しい空隙が生じないように収納した。	✓
15mm 以下のものを多量に収納していない。	✓
収納容器に損傷を与えないように収納した。	✓

処理対象廃棄物

廃棄物容器番号 又は保管体番号	発生施設 #1	発生場所の区分 炉 RI 混 有 無	発生元 測定年月日#2	廃棄物容器番号 又は保管体番号	発生施設 #1	発生場所の区分 炉 RI 混 有 無	発生元 測定年月日#2
2008120562	STACY施設	○					

\*1 放射線廃棄物保管記録票における「発生施設」に「解体分別保管棟」等の中間処理施設が記載されている場合は、当該廃棄物を最初に発生させた施設を記載する。  
 \*2 高圧圧縮対象の分別の際に記載する。

封入保管体

解体室内 ID	発生場所の区分				特殊な物質 容器表面	線量当量率(μSv/h) at 1m	容器 #3	解体室内 ID	発生場所の区分				特殊な物質 容器表面	線量当量率(μSv/h) at 1m	容器 #3
	炉	RI	混	有					炉	RI	混	有			
20201023	○				<0.2	<0.2	M1								
20201046	○				<0.2	<0.2	H1								
20201051	○				<0.2	<0.2	M1								

\*3 JIS Z1600 H級ドラム缶(200L)に封入した時は「H」を、M級ドラム缶(200L)に封入した時は「M」を、SUS製ドラム缶(200L)に封入した時は「SUS」を、S-1 容器に封入した時は「S」を記入する。

## 2. 感染性廃棄物の取扱いについて

• JAEA は原子炉医療照射を行っていると思いますが、ここで生じる炉規法上の廃棄物には感染性廃棄物も含まれるのでしょうか。そうであれば、その感染性廃棄物はどのように処理する計画でしょうか。

JAEA では、現在、感染性廃棄物を保管していない。

以上